

七尾の里海の住人たち

七尾の里海にはさまざまな生物がすんでいます。そこは、世界でもまれな生き物の宝庫なのです。



アオリイカ 秋になると編隊を組むように並んで泳ぎ海藻の森に現れる。協力して森にすむ魚を追い込み、捕食する様子が見られる。



アカエイ 水面を這うように泳ぐエイ。危険を察するとバタバタと砂をかぶり隠れる。泳ぐときは羽ばたくように中層を泳ぐ。



イソギンポ フジツボの殻を巣にして、中で卵を産み孵化の時まで育てる。時折顔を出して外の様子をうかがい警戒する。



アカイトハゼ ザラカイメンというスポンジの筒のような生き物の中に身をひそめる小さな(2cmほど)ハゼの仲間。このように生き物は互いに身を寄せて生活している。



アマモの花 桜の開花の時期に海の中で満開を迎える。花びらの間からは光合成でできた酸素の気泡が放たれる。

イルカ



能登島にすみ着いた野生のミナミハンドウイルカ。母子は常に一緒に泳ぎ、生きる術を学ばせているよう。

キヌハダモドキ



砂の上を這うウミウシの仲間。ウミウシは貝類の仲間では貝殻を失った生き物。さまざまな色や模様がある。

シャンデリアクラゲ



アマモをすみかとするクラゲの一種。泳ぐこともなく、アマモの葉にくっつきプランクトンを捕って生きている。

トビヌメリの産卵



夏の日没直後に行う産卵の儀式。オス(手前)はメスを肩に乗せて、ゆっくりと中層へ運ぶ。

ノトウミヒルモの花



初夏から七尾の里海の底を緑に染めるノトウミヒルモが紫の花を咲かせる。(能登付近の固有種)

ウマヅラハギ



ウマヅラハギの好物はクラゲ。とがった口でついばみ、あっという間にクラゲは穴だらけになる。

キヌバリ



七尾の里海でよく見かけるハゼの仲間。胴部から尾にかけ、しまが7本なのが日本海型。ちなみに太平洋型は6本。

ジュウモンジクラゲ



アマモの葉につく、十字型のクラゲ。真ん中は口で、四方の腕先の触手でプランクトンを捕り、口へ運ぶ。

ナベカ



潮の干満の影響を受けやすい岩場に多く見られるギンポの仲間。岩の凹凸や穴をすみかとし、尾から入り、キョロキョロと外の様子を見て、たまに穴から出る。

ハナガサクラゲ



ピンクや黄色、紫などの派手な触手をたくさん持ち合わせたクラゲで、泳ぐのが苦手。

ウミサボテン



砂からニョキニョキ伸びる姿はサボテンのよう。ポリプを広げプランクトンを食べる。暗い所で優しくたたくと光る。

クサフグ



砂の海底に潜ったクサフグが眼だけを出して隠れている。近づくと一斉に猛スピードで泳ぎ去る姿が面白い。

ダンゴウオの幼魚



およそ5mmの小さな魚。おなかについている吸盤でホンダワラの葉などにしがみつくと。真冬の冷たい海で会える。

ナマコの産卵



夏前の大潮の日。冬の間丸々肥えたナマコが岩に登り始める。大きく頭を持ち上げて放卵放精を始める。

ハナタツ



タツノオトシゴの仲間。体の各所にあるとげのような皮弁は、ホンダワラに擬態していて、見つけるのが大変。